

科目名称：	造形教材研究Ⅰ	
担当者名：	森田 ゆかり、坂井 亜也子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	演習	1
授業の目的・テーマ		
・教材研究の面白さ・大切さを知る。 ・教材研究のプロセスやデータを記録し、見える形にする。 ・造形活動を通して自分自身の世界を広げ、自由に「表現」する楽しさを知る。 ・こども絵本館での研修などを通し、「声を出してこどもに絵本を読む」この意味、つくり手の心、子どもの心を学ぶ。		
授業の達成目標・到達目標		
・見たこと、聞いたこと、感じたこと、考えたこと、学んだことなどを自分なりにまとめ、表現することができる。 ・様々な素材・用具・技法について知っている。 ・教材研究・環境構成の重要性を理解している。		

幼児教育学科		ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。		
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。		
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。		○

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 (レポート含む)	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)					0
幼児教育DP(3)			60	40	100
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の实務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容1》森田 アートスクール講師（2歳児～小学生の絵画・造形指導）	《経験年数1》2年6か月
	《内容2》森田 アートディレクター（こども対象のワークショップなど企画・実践）	《経験年数2》4年10か月
	《内容3》	《経験年数3》
	《内容4》	《経験年数4》
備考		

評価ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
教材研究	目標を理解し、期待以上に試行・試作・応用することができる。	目標を理解し、試行・試作・応用することができる。	目標を理解し、様々な素材・用具・技法を使うことができる。	目標を理解していない。活動にあまり参加していない。
主体的・計画的取り組み（事前学修を含む）	授業の目標を理解し期待以上の主体的な学修が見られる。	授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組んでいる。	授業の目標を理解し主体的・計画的に取り組もうとしている。	主体的・計画的に取り組めない。
教材研究のドキュメンテーション	プロセスやデータを期待以上に分かりやすく記録することができる。	プロセスやデータを分かりやすく記録することができる。	プロセスやデータを記録することができる。	文書が分かりにくい。量が少ない。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第1回	教材研究①素材・行為を楽しむ（ex. お花紙、洗濯糊・貼る、とかす）（ICT機器使用）	「幼児と表現A」第7回の授業内容（お花紙を遊ぶ）を復習。	15分
第2回	教材研究②素材・行為を楽しむ（ex. 和紙、彩液・染み込む、にじむ）（ICT機器使用）	第1回の授業内容を復習。	15分
第3回	教材研究③素材・行為を楽しむ（ex. 水性ペン、様々な紙類・にじむ）	第1回、第2回の授業内容を復習。	15分
第4回	教材研究①②③を見える形にする（グループワーク）	第1回、第2回、第3回の授業内容を復習。	15分
第5回	教材研究①②③を見える形にする（グループワーク）	第1回、第2回、第3回の授業内容を復習。□	15分
第6回	フィールドワーク 絵本研究（小松市立空とこども絵本館）	小松市立空とこども絵本館について調べ学習。	15分
第7回	フィールドワーク 絵本研究（小松市立空とこども絵本館）	小松市立空とこども絵本館について調べ学習。	15分
第8回	教材研究④プロジェクト活動・指導案作成のための教材研究（グループワーク）	「幼児と表現A」「保育内容・表現Aの指導法」の授業内容を復習。	60分
第9回	教材研究④プロジェクト活動・指導案作成のための教材研究（グループワーク）	「幼児と表現A」「保育内容・表現Aの指導法」の授業内容を復習。	60分
第10回	教材研究⑤ クレヨン	「幼児と表現A」「保育内容・表現Aの指導法」のクレヨンに関する授業内容を復習。	20分
第11回	教材研究⑥ 行為を楽しむ（ex. 回す、飛ばす、風で動く）	「回す」「飛ばす」「風で動く」行為を楽しむ教材について調べ学習。□	60分
第12回	教材研究⑥ 行為を楽しむ（ex. 回す、飛ばす、風で動く）	「回す」「飛ばす」「風で動く」行為を楽しむ教材について調べ学習。	60分
第13回	教材研究⑥を見える形にする	第11回、第12回の授業内容を復習。□	
第14回	教材研究⑦ 氷・水□	「氷」「水」を楽しむ造形遊びについて調べ学習。	20分
第15回	教材研究⑧ 感触を楽しむ（ex. スライム、寒天）	スライム、寒天など「感触」を楽しむ教材について調べ学習。	30分
事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。 また、事前事後学習としては、上記内容以外に次回までの小レポートをまとめることになる。			
成績評価の方法・基準			
定期試験は、実施しない。 その他の評価配分は、以下のとおりである。			
事前学修10%、教材研究のドキュメンテーション50%、授業への積極的関与40%			
課題に対してのフィードバック			
「ドキュメンテーション」をもとに→グループで「ディスコース」（必要に応じてさらに全体で「ディスコース」）→次の活動を「デザイン」することにより、学びのサイクルが生まれる授業を試みている（レジャ・エミリアの「3つのD」KINJO特化造形表現モデル）。また、提出されるワークシートなどに担当者が目を通し、担当者も次回の授業をデザインしている。			
教科書・参考書			
教科書：『美育文化ポケット 第37号～第40号』公益財団法人美育文化協会、『特化造形表現・実践のまとめ 第18号』（教科書は適宜授業で使用する） 参考書：『特化造形表現・実践のまとめ』バックナンバー、必要に応じてプリント配付			